

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0475201042
法人名	有限会社 ウェル創建
事業所名	認知症高齢者グループホーム ふれあいの家 白鳥
所在地 (電話番号)	仙台市宮城野区白鳥一丁目34-12 (電話) 022-388-8838
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 1 月 22 日

【情報提供票より】(平成 19 年 12 月 25 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤	15人、非常勤 2人、常勤換算 5.3 人

(2)建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	150000 円 無	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1200	円	

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	9 名	女性	9 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低	66 歳	最高	88 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	仙台東脳神経外科病院、しらとり歯科、わたなべ整形外科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

七北田川を横切る仙台東部道路のすぐ近くの住宅団地の一面に立地しており、近くには中学校やマンションがある。木造二階造りの開設四年目のホームである。明るい居間のすぐ前が通学路になっており、朝夕は児童生徒の通学風景が眺められ、入居者の楽しみとなっている。管理者は、老人保健施設に勤務していたが、多人数の方への介護方法に疑問を持っていたとき、現理事長の個別ケアを目指すグループホームの立上げに出会い参加した。日々状態の変化する認知症の方への対応や本人、家族の希望を聞き取りながらのケアは難しいが、勉強を重ねてきたし、これから更に深めていきたいと語っている。当ホームは職員の異動が少ないため、入居者の気持ちも安定し、また職員間のチームワークが良く、気持ちの上で余裕を持って介護に当たることができている。地域密着型サービスを目指すグループホームとしての理念の再構築については今、全職員で検討中である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型サービスを念頭においた理念について今検討中である。緊急時対策や避難誘導については消防署や町内会の防災訓練、避難訓練に参加して勉強している。職員の増員確保は経営上難しいが、勤務体制については見直しをしていきたいとしている。地域との関係は、運営推進会議を開催したり、地域の行事に参加したりして関係の深まりが出来つつある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 当日出勤の全職員で昼休みなどを利用して取り組んだ。運営者の参加はなかった。職員間の意見のくい違いはあったが話し合い管理者が取りまとめ、厳しく自己評価した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は過去四回開催された。議題として、開設当初に作り上げた理念についての説明、外部評価の説明と結果の報告、地域行事への参加、地域防災訓練、町内会の文化祭への参加についてなどが討議された。また、事業所として参加するばかりでなく主催者として行う芋煮会の招待について説明を行い、地域から多くの方の参加が得られた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会はあるが、あまり活動していない。意見、要望、苦情の受付窓口は重要事項説明書に明示し、掲示もされているが事業所の窓口の掲示もお願いしたい。また日頃ホームを訪れる事の少ない家族への配慮として入居者の日常の様子など報告を密に行い、家族の意見、要望を引き出すようにしていただきたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常的な地域住民との交流、連携はまだ不十分だが、町内会行事に参加したり、秋の事業所の芋煮会に招待したりして徐々に交流している。また、認知症への理解を深めてもらうために講習会を開く事などを検討しているので、今後更に交流が広がる事が期待できる。

2. 評価結果（詳細）

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初、職員で取り組んだ理念のままであり、地域密着型サービスを念頭においた理念はまだ作成されていないが、今後運営者と全職員で検討し、作成していく。	○	西棟では新しい理念について話し合いを持ったが、作成までには至っていないので、事業所として運営者、全職員で話し合い独自の理念を作成していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議の場などでは話したりはするが、日々の介護の場において強く意識してはいない。	○	地域密着型サービスを念頭においた理念を早急に作成すると共に日々の介護の中で常に意識し、実践していただきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初から町内会に入会しており、地域の祭りや行事に参加しているが、地域の住人として清掃活動や行事の役割を担うという事は今のところはない。認知症への理解を得るためボランティアの受け入れを多くしたり、講習会の開催を予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価を管理者、職員で行うことにより、互いの意見の違うところ、また介護を行う上で改善しなければならないところが見えてきた。要改善項目のうち、運営推進会議は実現できたが今後は更に内容の充実に努めるとしている。地域との交流についてはホーム側からの働きかけも出来つつある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去四回開催した。毎回議題を何にするか苦慮している。今までの主な議題は、防災訓練や緊急時の避難について、地域の行事予定についてなどであった。	○	会議の議事録をしっかりと取り、今まで何を話し合ってきたかがはっきりしていれば、次は何を重点にしたいかが見えてくるのではないかと思われる。地域の特徴を捉え、事業所がどのように係われるか模索していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年は仙台市の介護相談員の現地指導を受けた。このことをきっかけに、事業所のことをよく知ってもらい、市の担当者との関連を深めサービスの向上に役立てていただきたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態や日常生活に変化があるときは家族に報告と相談をしている。また、事業所の新聞を請求書と一緒に送ってホームでの生活を報告しているが、毎月ではない。	○	家族の訪問は少ないので、報告は出来るだけ頻繁に行い、家族の意見、要望を引き出すようにしていただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情、要望についての窓口及び、第三者委員会が設置されていることが明示され、ホーム内に掲示もされている。家族の意見要望を聞き取りやすいと思われる家族会はあるが実際の活動は今まではされていないので、事業所側から何らかの働きかけが必要と思われる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は極力行わず、介護職員の固定化に努力している。やむを得ず異動となる場合は入居者によく説明し、納得を得るようにしているが、家族への説明はしていない。	○	職員の離職に際して、入居者の家族に対しての説明は今まではなされていなかったもので、今後はよく説明し、不安の軽減に努めていただきたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県のグループホーム連絡協議会主催の研修や仙台市の研修に経験年数や研修内容に応じてできるだけ参加させているが、パート職員は参加させていない。	○	介護の質を保ち、更に向上させるためには研修は不可欠であり、運営者はパートを含めた全職員に事業所内外の研修の機会を確保していただきたい。また研修の内容はスタッフ会議の場などで報告し、職員が共有する機会を設けていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や年一回の実践者報告会に管理者が他の職員と一緒に参加し事例報告を行った。その際には他の事業所の職員と交流したり、また当ホームに来てもらい、短時間でも一緒に介護に従事したりして互いに勉強し、刺激しあっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学し、納得した上で入居している。入居者自身が環境になじむまでの間家族や、関係者にたびたび訪問してもらい、徐々に慣れるように配慮している。大体一、二ヶ月くらいで環境に馴染んでいく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居前の情報収集で、本人の出来ること得意なことを知り、日常の掃除、アイロンかけ、雑巾作りなどの役割をしていただいている。また、菊作りや菜園作りとその手入れ、書道など趣味として楽しんでいる。職員は入居者から昔の歌を教えてもらったり、また「大変だね、ごろうさま」など、いたわりの言葉かけをしていただく事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者からホームでの暮らしについての希望の聴き取りに努め、主に身体の不調への対応や、日常生活でしたい事などが達せられるように支援している。希望の表出困難な方には、職員間で話し合い、少しでも心地よく過ごせるようにケアに当たっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15		○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族の意見、要望を出来るかぎり取り入れ、アセスメント会議にかけ、全職員で意見交換をし介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間を定めたものはその期間に応じて見直しを行っているが、期間途中で変化が生じた場合ケア方法を変えることはあっても期間終了まで計画はそのままにしている。	○	期間にとらわれず柔軟に見直しを行っていただきたい。スタッフ会議の時に出席した意見などを大切に、入居者本人の実情に合わせた見直しを行い、介護計画書の変更も必要である。また計画の見直し変更について家族の意見を聴くことも大切にしていきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	主に通院時に事業所の車を利用したり、障害を持っておられる方にはタクシー券を利用してもらい負担の軽減をはかっている。通院には看護師資格のある職員が付き添っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人や家族の希望するかかりつけ医のいる医療機関を利用している。家族が付き添う場合には、連絡ノートを持参してもらい、情報の共有を図っている。家族が付き添えない時は職員が行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人、家族の意見、希望を聞いているが、すぐに返答を得られない場合が多い。また、事業所として統一した対応方針の策定は行われていない。	○	入居者が重度化していくことは避けられない事であるので、事業所として対応についての統一方針を決め、職員間の共有を図り、本人、家族、かかりつけ医と良く話し合っていたきたい。その上で意思確認書の作成も必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他の入居者の居るところで排泄の声掛けはしない。入居前の生活歴は聞かれても話さないことを徹底して実行している。また、個人ファイルは事務所の机の引き出しに入れ、外からは見えないように保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、就寝、入浴など出来るだけ個人のペースで一日を過ごしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者から毎食分届けてもらっているので食材の買い出しはないが、職員と一緒に調理や盛り付け、食後の後片づけ等分担して行っている。また職員と一緒に食事をしながらやさしくサポートしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕方六時から九時の間は職員の勤務体制の関係上対応できていないが、入浴は毎日出来る。できるだけ本人の希望する時間に入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、入居者が日々の生活の中で、これまでの経験を生かし、調理の手伝い、片づけ、アイロンかけ、菊作り、菜園の手入れなど行えるように支援している。また近隣地域や事業所内の行事に参加したり、町内会の文化祭に作品を出品するなどの支援をして楽しさを感じてもらえるように、また気晴らしができるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車が使える人のあるときは入居者の希望に添って買い物に出かけるなど対応しているが、入居者の受診などで車と職員の手が取られることが多々あるので、外に出かけたいという希望に添えないこともある。	○	機動力や人的に余裕のない状況であるが、車を使わずに近場へ少人数ずつの外出も可能と思われる。外気に触れることは入居者だけでなく職員の気分転換を図るうえでも有効であり、また近隣の方とお近付きになり認知症への理解を得る良いチャンスでもあるので外出の機会をなるべく多く持っていたきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解しており、日中は鍵を掛けないケアをしている。しかし、入居者が希望する場合には居室の鍵を持ってもらい、その方が自由に施錠できるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した避難訓練を実施し、町内会の防災訓練にも参加した。職員が非常時召集に自宅からどのくらい時間がかかるかのアンケートを実施するなどして緊急時対策の参考にしている。また、運営推進会議で実際の避難をどうするか話し合っているが更に検討が必要である。	○	地震及び夜間を想定した訓練も是非行っていただきたい。、運営推進会議の場などで災害が起きた場合に地域の協力が得られるように要請したり、二階建て施設の避難方法について話し合うことも必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材が毎食分業者から届けられる。毎日個人別の摂食量と水分摂取量を記録している。食の好みについては入居前の現地調査の時に情報収集している。栄養に関する専門的なアドバイスを今後定期的に受ける予定である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	二階建てであるが共用部分は一階にある。トイレ、浴室は一般家庭と変わらない広さであり、コタツのある小上がりは喫煙場所となっている。季節感をさりげなく取り入れた明るい居間は広すぎず、狭すぎず、居心地よさそうな空間であり、居間のどこからも台所が見え、何を作っているかがすぐ分かり家庭的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品の少ない人も、多い人もその人らしく暮らせるようにしている。ホームでは訪問者が居る時にゆっくりくつろげるように新たに椅子の配置を考えている。		